

Ohmi net

No. 62
3・4・5月号

おうみネット

●発行日/2008年3月1日
●発行所/(財)淡海文化振興財団



CONTENTS

特集●淡海とぴっくす ②
これからの市民活動を考える… **パート4**

市民活動

これから
10年を展望する

■元気NPO探し隊 ⑦ ⑧

- メンタルスマイル
- 特定非営利活動法人さかもとみんなの家
- 安曇川流域・森と家づくりの会

■孫の手ナビ ⑨ ⑩

[そこが知りたい!NPO運営術 VOL.10]
[Sekenよし!]
財団法人 ダイトロン福祉財団

■支える・つなぐ・結ぶ にゅ〜す宅配便 ⑪ 情報BOX ⑫

■Ohmi net INFORMATION 3月・4月・5月 ⑬ ⑭



淡海ネットワークセンター

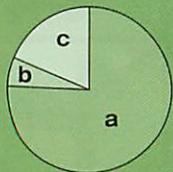
3月	1 土 労働組合法施行記念日 おうみ未来塾塾生募集説明会	2 日 おうみ未来塾塾生募集説明会
3	9 日 国際女性デー ありがとうの日 おうみ未来塾塾生募集説明会	10 月 東京大空襲記念日
16 日	17 月 国立公園指定記念日	18 火
24 月	25 火 世界結核デー 電気記念日	26 水
4月	1 火 児童福祉法記念日	2 水 国際こどもの本の日
8 火	9 水 女性の日	10 木
16 水	17 木 ハローワークの日	18 金 発明の日
24 木	25 金	26 土
5月	1 木 メーデー 日本赤十字社創立記念日	2 金 郵便貯金の日 歯科医師記念日
8 木	9 金 世界赤十字デー	10 土 愛鳥週間 (16日まで)
16 金	17 土 旅の日 生命・きずなの日	18 日 国際親善デー 国際博物館の日
24 土	25 日	26 月

「あなたが 市民活動に 参加するなら？」

●巻頭アンケート結果

Q1

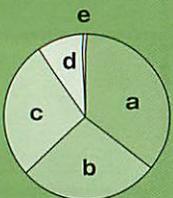
市民活動やNPOの
役割は今後10年で
大きくなると思う？



- a. はい…75.7%
- b. いいえ…5.6%
- c. 変わらない…18.7%

Q2

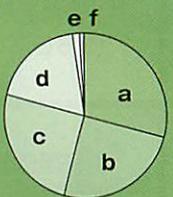
市民活動が
発展するための
重要なポイントは？



- a. 資金…35.4%
- b. 人材…27.8%
- c. 市民参加…27.1%
- d. ネットワーク…9.0%
- e. その他…0.7%

Q3

あなたが市民活動に
参加するとしたら？



- a. まちづくり…29.2%
- b. 教育…25%
- c. 環境…25%
- d. 福祉…18.6%
- e. 国際協力…1.4%
- f. その他…0.8%

アンケート：携帯情報メール発信会社「i2メール」協力
回答者 総数144名 男性44名 女性70名 不明30名
10代…2名 20～30歳…33名 31～40歳…48名
41～50歳…40名 51歳以上…6名 不明…15名

V・O・I・C・E



少しずつでも、何度でも、 あきらめない

大きな視野を持つために、30年後を思い、次の10年を創ろうとお声かけをしています。みなさんが思い描かれる30年後の社会は、どんなものでしょうか。30年後といえば、私にとって歩いてきた軌跡をじっくりと振り返る黄昏の時。その頃、社会はどうなっていて欲しいか、そのために自分がこれからどう活動していくのかと「自分の確認時間」を持つときがあります。自分で起こせる風の小ささに落胆するときは、自分の本性の声を聞き、自分にできることを「少しずつでも、何度でも、あきらめない」と深呼吸をします。あれもこれもしなげさと焦らず、動いていれば見えてくる風景に答えが見つかると、たまには小休止も必要。

何年前か、子ども関連の市民活動団体に講師として呼んでいただきました。課題整理や方向性を出すために、皆さん真剣でした。ワークショップの最終日、「みなさん、どうしてここにいるのですか」という私の質問に、「みんなで活動することで元気がでるから」と全員が同じ答えだったと記憶しています。「みんなであることの価値」を確認できたこの日は、ワークショップに参加された方々の次の一步を踏み出すのに大切な小休止だったのではないのでしょうか。それから数年、今では独自事業とあわせて中間支援機能も持ち、幅広く活動されています。時には一休みし、「自分達を思いっきり褒めてあげる」という心の余裕も、活動を継続していく上で大切だと思っています。

★市民活動未来予想図 10 years after

さて、市民活動は10年後どうなっているか、ここからは私の予想です。市民活動団体は、あらゆる「公共サービス」のシーンで、力強くアクターとして活躍しています。草の根ボランティア活動から多様な主体を巻き込み地域を変えることができる市民活動団体へと進める制度的道筋がいくつもできており、自分のライフスタイルにそったキャリア・チョイスとして市民活動団体立ち上げや就職が当たり前になっているでしょう。市民の主体的活動が深化し、裾野は益々広がっている。勿論そうなるまでには時間がかかります。遠くを見据えながら、自分にできることを「少しずつでも、何度でも、あきらめない」、そして少しでも多くの人と手をつなぎながら、「ふっくらとしたまちづくり」を目指していきたいと思っています。

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

これからの市民活動を考える

市民活動

これから10年を展望する

淡海ネットワークセンターは、昨年4月に設立10周年を迎え、記念特集を4回シリーズでお届けしてきました。いよいよ今号が最終回です。今号は、市民活動を取りまく3セクター（NPO・企業・行政）より、それぞれの立場でこれからの10年を展望していただきました。社会全体がどのように変わっていくのかを探りながら、皆さんの今後の活動の展開に役立てていただければと思います。



Profile



松原明（まつばら あきら）さん

シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会事務局長。1960年大阪生まれ。神戸大学文学部卒。広告制作会社、フリーの経営コンサルタントを経て、94年から現職。NPO法、認定NPO法人制度の立法活動を推進。著書・共著に「NPO法人ハンドブック」「NPOがわかるQ&A」など多数。

今、「市民活動のこれからの十年」について、三つのシナリオが議論されている。

発展、停滞、衰退の三つである。

一九九〇年代初めに、冷戦が終結し、政府の役割が後退していったとき、福祉や国際協力、環境保全など様々な分野で、多様な市民活動が一斉に成長していった。九五年の阪神淡路大震災では、ボランティア・市民活動の活躍に脚光が集まった。九八年にはNPO法ができ、その後三万を超えるNPO法人が誕生するに至っている。

市民活動 これからの十年を展望する

シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会 事務局長
松原明

その間、「新しい雇用の担い手」「社会変革の推進役」「コミュニティビジネス」などの新しい言葉が踊ったものだ。

しかし、現状では、期待されたほどの成長もできず、言われたほどの雇用を生み出しておらず、大きな変革の主役にもなりきれしていない。介護保険等の制度の変更や、委託事業、補助金に振り回されて、むしろ政府の下請け化して期待を裏切っている面もある。

このような面を見、新しい動きが見

えないことから、「停滞」が続くと見る人は少なくない。

むしろ、しばらくは「衰退」局面に入りつつあるという人もいる。

NPO法人の七割以上は、財政的課題を抱えており、解散する法人も増加してきている。

国・自治体の財政難から、委託事業、補助金などのコストカットが進み、経営難に陥る団体が増えてくるのではという予測がある。さらに、公益分野への企業の参入が一層進み、競争力に劣るNPOには厳しい状況になるという見方もその背景にある。

一方で、「発展」のシナリオを描いている人々の間では、共通ビジョンは不足しているのが現実だろう。「市民活

動は大切だから」という理念的な考えが、「これからも発展するはず」という楽観論を支えているようだ。

しかし、実際には、発展のチャンスは確実に拡がっている。政府の昨年発表の世論調査によると、市民活動を重要と思う人は国民の八割を占め、活動に参加したいと考えている人は四割を超える。また、NPOに寄附したいという人も二十三%を超えている。企業もCSR（企業の社会的責任）活動から、NPOとのパートナーシップを強めてきている。

視線を市民活動の周囲に転じると、着実な変化が起きているのである。市民活動の現状を見るのではなく、環境の変化を見、それに適切に対応さ

えできれば、人々のさらなる支援と参加が期待できる。

そのためには、市民活動自体の「変革」が今求められている。

もっと、社会に参加したいという人々の方を向き、自分で課題を解決することから、課題を解決する仲間を増やすことに、活動の焦点を切り替えるべきである。それができれば、市民活動の前には、成長を可能にする肥沃な大地が広がっているのが見えるだろう。ただ、その「変革」は、待っていてもこない。起こすべきものである。

これからの十年は、市民活動自身の新しい変革へのチャレンジの十年となる、というのが私の考えである。

社会課題の解決に向けた「企業とNPOの協働」を展望して

NPOの社会的責任として、キャパシティビルディング（基盤強化）

「NPOとのパートナーシップ」という言葉が登場し出したのは一九九〇年代の半ばからであり、現在は「NPOとの協働」という言葉が使われている。

二〇〇三年頃から、企業はCSR活動に着手し、企業によっては、それまで取り組んでこなかった「企業市民活動／社会貢献活動」を開始するところも多々登場し始めた。同時に企業市民

への期待

松下電器産業株式会社
社会文化グループ

菊地 健

活動の推進において、新しい役割を求められ始めたのが市民活動団体・NPOである。NPOの持つ先駆性、専門性に期待し、企業市民活動のパートナー（協働先）となりだした訳である。

Profile



菊地 健 (きくち たけし) さん

1978年、松下電器入社。生産システム・生産自動機・金型などの開発を担当し、その後、労働組合専従として組合員教育を主に担当。1993年より現在の企業市民活動の専門部署に就き、バリアフリー/ユニバーサル製品開発の社内外への啓発・推進、NPOとの各種の協働プログラムの開発、NPOの基盤強化基金(Panasonic NPOサポートファンド)の立上げ、ユニバーサルデザイン推進部門やCSR推進部門の立上げを行う。

企業とNPOの協働は、専門的な分野で活動しているNPOと、資金・人材・技術等を持った企業が相互に得意分野を提供しあい、新しい社会課題を解決していく形が理想ではあるが、現実的には資金調達に苦慮しているNPOに企業が資金や機材等を提供している支援形が大半である。一部には汗をかいたのはNPOであり、企業市民活動のアウトソーシングの役割をNPOが担う場合も見受けられる。

当社は、一九九〇年代前半からNPOと協働した活動を進めてきたが、NPOのマネジメントの実情を危惧し、二〇〇一年にNPOのキャパシティビルディングII基盤強化(ガバナンス・戦略的計画作り・財務管理/資金調

達・人材開発・労務管理・広報等のマネジメント能力向上等)の為の助成金「Panasonic NPOサポートファンド」をスタートさせた。真に協働できるNPOが少ないという実態、事業助成金の活用で疲弊していくNPOもあり、NPOのキャパシティビルディングを目的とした助成金の必要性を感じたからである。事業助成が多い中で、当時も今も他に類を見ないプログラムであるが、その理由は「キャパシティビルディングには時間がかかり、その成果も見えにくい」ということである。又、さらに昨年度から、NPOのマネジメントをサポートする人材の増強、マネジメントスキルをもつスタッフの強化を支援するプログラムにも、

の視点から今後を展望したときにNPOセクターにとって重要なことは、自らの組織のキャパシティビルディングのチェックとその充実であろう。

ここ十数年、NPO・市民活動の現場を見てきて感じるのは、やはりNPOにとって重要なことは(企業と同様であるが)「熱意」と「組織基盤・マネジメント」のバランスであろう。熱き心だけでは活動の持続可能性は有り得ない。企業だけでは解決できない社会課題が多い中でNPOの力が大いに期待されているだけにNPO・市民活動団体の組織基盤・マネジメントがより充実し、更に多くの社会課題を共に解決していける時代の到来を期待したい。

力点を置きだした。また、キャパシティビルディングの成果が現れだしたNPOへのヒアリングも開始した。

「キャパシティビルディング」という言葉自体も、まだ緒に付いたばかりであるが、NPOと企業の協働

公共サービスと公共の意思決定が激変する

神奈川県職員・特定非営利活動法人
パブリックリソースセンター代表理事
久住 剛

■創造は十年単位で

日本でNPOという言葉が聞かれるようになったのは、一九八〇年代半ばのことです。その後、新たな社会システムとしてNPOを日本に生み出そうという運動が展開され、約十年を経て実現しました。その後の十年でNPOは日本に定着しました。これからの十年で、NPOは人々の生命を支え、社会を動かす中核となっていくでしょう。もともとNPOは社会を創造し、変革していく市民活動の「器(うつわ)」として構想されたものなのです。

ここでは、地方行政や地方政治の変化を読み解きながら、市民活動に基礎をもつNPOのこれからの十年を展望してみたいと思います。

■公共サービスの提供主体

地方行政の今後十年の変化は、極めて大きなものになるでしょう。公共サービスの提供はさらに「外部化」が進みます。役所が直接行うサービス提供はほとんど無くなるでしょう。役所は、公共サービスの企画や公的資金の提供、あるいはコーディネートという役

割を担うことになります。サービス提供は、外部すなわち企業やNPOがそれを担うようになります。

市民活動に基礎をもつNPOは公共サービス供給の中心的な存在となっていくでしょう。もちろん、新たなサービスの企画や改善にも、現場のNPOからの情報提供や提案は不可欠となります。受益者である市民の声を、NPOが代弁し、役所にそれを伝えるパイプ役となるわけです。

例えば、お年寄りへの福祉サービスを想定してみてください。サービスの基礎となる財源は自治体から公的な資

金提供され、サービスの中身については、NPOと行政が相談しながら企画を練り、NPOが実施していくことになるでしょう。

Profile



久住 剛 (くすみ つよし) さん

1980年明治大学卒業。1999年ニューヨーク大学ロバートF.ワグナー校公共政策・NPOマネジメント修士課程修了。神奈川県職員としての勤務のかたわら、日本ネットワークーズ会議、市民セクター支援研究会などの場で、市民活動、NPO支援システム、行政とNPOの協働、企業の社会性(CSR)等に関する調査研究及び実践に長年携わる。1986年自治体学会創設に参画。1996年日本NPOセンター創設に参画。横浜国立大学非常勤講師(2007年～)、自治創造コンソーシアム常務理事などを務める。共著書に『NPO基礎講座』『パブリックリソースハンドブック』『SRI社会的責任投資入門』など。

R E P O R T

●事務局まとめ

この1年間を通してシリーズでお届けしてきた「これからの市民活動を考える」。市民活動の過去から現在、そして未来をみてきました。

10年前に比べ、市民活動の環境は大きく変わりました。市民活動に対する社会的な認知は高まり、必要性が認められ、市民活動を実践する人が増えてきました。また、資金や物品提供など何らかの形で市民活動を応援したい人も出てきています。

一方、市民活動の外に目を向けても、変化は確実に起こっています。行政は、これまで直接担ってきた住民サービスの一部を企業やNPOなど民間に移行するようになってきました。また、企業は、「企業市民」という言葉でも表されるように、利益追求だけでなく社会的な責任に向き合う姿勢で事業に取り組むようになってきました。こうした中、行政や企業は、協働の相手として当事者性や先駆性をもった市民活動に対して期待を持っており、市民活動団体の活躍の場は確実に広がってきています。

このように市民活動を取りまく環境が着実に変わる中、これからどのように市民活動をすすめていけばいいのでしょうか。

社会や地域と密接に関わりながら活動を展開している市民活動団体は、周りの環境の変化や社会の動きをしっかり見据えながら、自らの団体の強み・弱みを整理して、他の人や団体にも目を向けて活動を展開していくことが求められています。これまでのシリーズ企画を通して、さまざまな立場から市民活動のこれからの展望してきましたが、共通していたのは、「単体で取り組むだけではなく、他の人や団体と連携して取り組んでいくことで課題は解決されていく」という視点です。それが、結果的に地域や社会の多様な思いがカタチになり、市民社会が実現していくために必要なのではないのでしょうか。

社会を良くしていくための取り組みはNPO・企業・行政、個人・組織の枠を超えて、今、互いに協力し始めてきています。これは、「社会を良くしていきたい」という思いはみな同じだからです。

淡海ネットワークセンターは、そのための情報提供や事業展開を通して、地域のさまざまな主体をつなぐコーディネーター役として、また、皆さまのサポーターとして、これからも尽力していきたいと思っています。

最後に、淡海ネットワークセンター設立10周年を記念して、これまで滋賀で市民活動を実践してこられた方の思いに焦点を当てながら、魅力的で活力ある滋賀の市民活動を展望する本を近々発行する予定です。これをお読みいただき、「これからの滋賀はおもしろくなる」とお感じいただければ幸いです。

■アドボカシーの主体

政治とは、公共の意思決定の仕組みです。この意思決定の仕組みが、この先十年で大きく変わっていくことが予想されます。これは、インターネットの爆発的な普及が背景にあります。現在のようないくつかの選挙や代議制ではなく、主権者である市民の意思がよりダイレクトに表明され、意見集約や意思決定もインターネットに

よって行われるようになるかもしれません。現在の代議制が残るとしても、電子的なネットワークにおける意思表明を無視できなくなりそうです。そうした中、市民活動やNPOは、公共の意思決定に際して必要な情報や意見を提供する役割を担うようになります。これは、公共サービスや政策を企画・決定するプロセスの中で「アドボカシー」（実践を伴う政策提言）と呼ばれる機能です。アドボカシーはNPOの「社会創造」「社会

変革」の機能として不可欠なものになっていくでしょう。例えば、NPOは、現場のお年寄りのニーズ分析を基礎に、先進的なサービスに関する情報を収集し、新たな福祉サービスを議員や市長に提案し、議会では新たなサービスが条例化され、新規に実行されるようになるでしょう。このように公共サービスとアドボカシーが市民活動やNPOの十年後を変えていくのです。

者だけではなく、間に「市民」が入らないと本当の社会復帰はできないと活動する「友の会」に共感し、高田さんも仲間を募ってともに学びながら、一九九五年、地元守山でサロンを開きました。

サロンは週一回。毎回二十〜四十代の当事者の方が十人ほど集まります。「お茶を飲みながら、当事者さんと私たちが一緒にゲームやトランプ、おしゃべりなどをします。自然体で接します。家にこもりがちの方がここに来てくれるだけでもたいへんなことです」と高田さん。月に一度の「ランチサロン」は特に人気で、メンバーが作った料理をみんなでいただくとか。「ここで、みなさんの気持ちが和んでくれるのはうれしいですが、お世話する私たちが一番癒されてますね。勉強することは多いけれど、一緒に活動する仲間が増えて欲しいです」。

ストレス社会だからこそ大切な憩いの場となるサロン。高田さんたちの活動が、これからも継続されることを願っています。

(編集ボランティア 松井由美子)



●クリスマス会の様子

メンタルスマイル

代表●高田幸子さん 設立●1990年
メンバー●11名 連絡先●守山市焰魔堂町177
TEL/FAX : 077-583-2909

※茗荷村
老若男女、障害のある人ない人、虐待を受けた人受けてない人など、様々な人が一緒に暮らす山村(コミュニティ)。東近江市にある。

※里親ファミリーホーム
自分の家庭を提供して実親に育ててもらえない子どもたちと一緒に暮らすグループホーム。グループホームとは、家庭的な雰囲気の中で、少人数が共同生活をする仕組みをいう。里親ファミリーホームはまもなく国で制度化される予定である。(元藤さんはその制度づくりに関わっている)

さかもとみんなの家で里親ファミリーホーム(※)を運営しています。ここでは、家庭的な雰囲気の中で、四人から六人の子どもの育てることを想定しています。子どもは多人数で育つこと、地域の中で育つことで自立していきます。しかし一組の里親夫婦だけでは負担が大きすぎるため、子育てや家事、子どもの学習など里親をサポートする仕組みを現在作ろうとしています。これは元藤さんご自身も5人の実子を育て、二十数名の里子とずっと関わってこられた経験が基となっているそうです。里親制度について一般にほとんど知られていない現在、啓発を行い、里親登録者数を増やすと同時にサポートする仕組みづくりや地域が子どもを育てる力を取り戻そうと呼びかけています。

(編集ボランティア 幡 郁枝)



●年1回発行の「さかもとみんなの家だより」

特定非営利活動法人さかもとみんなの家

代表●元藤大士さん 設立●2006年
会員●約100名 連絡先●〒520-0837 大津市坂本6丁目16-7
TEL/FAX : 077-578-6804 e-mail : mizuho01@mx.cable-net.ne.jp



●家の内装と壁塗り体験

達也)
ティ
集ボ
松田

ず、手を入れられない森は荒廃が進んでいます。他方では住宅は大量生産・規格化が進み、建築業界には大手企業の下請け業者化が広がっています。こうした流れに疑問を抱き、実際に朽木の木材で家を建てたいという施主とその思いに応えようとした林業家、施工業者の出会いがきっかけになり、二〇〇四年二月森と家づくりの会は発足しました。顔の見える関係の中で家が建てられる仕組みをつくることを目標に、これまで「森」「製材所」「建築現場」をたどるワークシヨップなど、木の家づくりの価値を知らせる活動に取り組んできました。地元の木を活用することが滋賀の森を守ることにになり、水と琵琶湖を守ることに通じます。森に暮らす林業家、木の家を造る施工者、実際にそこに住む施主、それぞれの顔が見える関係をつくること、地域を守ることに繋がります。会代表宮村太さんは語ります。木が育つのは何十年もの時間がかかります。それと同じように、森と家づくりの会の活動は孫子の代まで視野に入れた地域のあり方を模索するものです。

●メンバーで滋賀県立大学大学院生の山盛孝治さん

●メンバーで工務店経営の坂田徳一さん



安曇川流域・森と家づくりの会

代表●宮村太 設立●2004年 会員●21名
連絡先●高島市新旭町旭1252
TEL : 077-573-3225 FAX : 077-573-7900
e-mail : info@mori-ie.com URL : http://www.mori-ie.com/



をうまく活用してみてはいかがでしょうか？お勧めなのは「メールリングリスト」です。これは、メールを使って大勢の人とコミュニケーションすることができるシステムのことで、登録した全員に一同に同じメールが送れるので、議事録の確認を一同に送ることができ、指摘があった場合もメールリングリストで返信すればみんなで確認することができます。議事録以外にも、簡単な情報交換や会議であれば、わざわざ集まらなくともメールリングリストですることが可能です。

※メールリングリストについてさらに詳しく知りたい方はセンターまでお問い合わせください

□⑦会議の進め方がどうだったかを聞き、次の会議の改善に役立てる。

さらにより会議にしていけるためにも、機会をみて振り返りをする事は団体にとっての成長につながります。

●会議のお助けアイテム～その4

「レジュメ（次第）」

レジュメ（次第）は会議資料に欠かせません。会議の議題や報告事項が一枚に書かれているもので、その会議で話し合う項目がまとめて書いてあるものです。これがあると、会議で進める内容が一目瞭然ですし、終了時に再確認する時にも役立ちます。

○○会議
日時:○○年○○月○○日(○)○○:○○～
場所:○○○○

議題

- 報告事項
 - 1.○○の報告について
 - 2.○○に参加してみて
- 協議事項
 - 1.○○イベントの開催について



▲要約筆記用に目に優しく改造した自社製品ドキュメントプレゼンターを助成



▲社会福祉法人かすみ会「かいぞろ」にフォークリフトを助成

なければ」という県の要請を受け、検討の結果緊急助成を行いました。

当財団では「福祉だより」を年2回発行し、助成先からの報告や賛助会員（個人1口1,000円～・現在170名）の募集を呼びかけています。財団事務については社員一丸となってサポートし「真心込めたふれあいと助け合い」をモットーに、人々が暮しやすい社会の実現を目指します。「私は滋賀県出身で東京勤務を経て故郷に戻り、財団の設立準備から関わらせて頂き、大変幸せを感じています。大きなことはできませんが、小さな積み重ねを継続させていくことが大切と考えています」（益野事務局長談）。

※ノーマライゼーション=障害の有無に関係なく誰もが普通に暮らせる社会の構築
※第7期助成金の申込みは4/7～24受付。募集要項は滋賀県社会福祉協議会のホームページで紹介。

おうみ未来塾

リレーエッセイ

つじかわ さくお
辻川 作男さん



[1期生]
NPO法人ギャラリーシティア座座理事
長浜市民国際交流協会事務局長
アートインナガハマ実行委員会委員

1999年開講された「おうみ未来塾」。その第1期生として学んで早10年が過ぎ去りました。この間、次々と卒業された仲間が地域の市民活動の担い手となっておられることに心から敬意を表します。

長浜市はもともと市民主導のまちづくりが盛んで、私も当時4つのボランティア団体の事務局を担当していました。しかし、ボランティア団体共通の悩みである「人・モノ・金・情報」の壁に当たり少し悩んでいた時でもあり、「地域プロデューサー」の育成を目的に開講された「おうみ未来塾」は、今の自分をブレイクスルーしてくれるのではと思い、心弾ませ申し込みました。

当時NPOは時代の先駆けであり、鬱積した社会を変えていく主役となるとの期待に満ちた時代でもあったことから、多くの人から様々なことを教えられました。それまで闇雲にボランティアをしていたのは違い、新鮮で創造的で温かい切り口であり、何より多くの人々と知己を得たことは大きな財産だと断言できます。

10年を経て地域環境はますます厳しくなっています。同時に、NPOの活動も「独りよがりの思いこみ」では地域に根付きません。混迷する現代こそ絶好のチャンスととらえ、「志」をもち、「地域との連帯」を求め、持続可能な実績を着実に積み、地域の信頼を得ていくことが大切です。そのためには、今こそ未来塾卒業生による「地域ファンド」や「地域ネットワーク組織」などの支援制度を独自に構築してはどうかと考えています。

NPOサロン見聞録

誰もが気軽に立ち寄れるまちなかの「居場所」や「サロン」をご紹介します。

高齢者福祉施設ぎおうの里
『喫茶ぎおう』



2005年9月に開所した野洲市の高齢者福祉施設「ぎおうの里」では、同年11月頃より「喫茶ぎおう」の運営を始めました。野洲市では市内の各中学校区に1つずつ特別養護老人ホームを開設し、「ぎおうの里」では特養のほかショートステイ・デイサービスを行っています。そんな中、入所者や来所者の方と地域の方が気軽に交流できる場として「喫茶ぎおう」を開店したのです。お店は曜日ごとに地域のボランティアグループが運営し、それぞれ手作りケーキ、ソバを使ったお茶菓子等と飲み物を100円で提供。無料で利用できるギャラリーやホールもあり、訪れる人々のいこいの場として活用されています。

入所者・来所者と地域の交流の場としてボランティアグループが曜日ごとに開店

【問】 高齢者福祉施設ぎおうの里
TEL: 077-586-5444 FAX: 077-586-5159
URL: <http://www.ex.biwa.ne.jp/giounosato/>
「喫茶ぎおう」営業時間: 月～金
13:30～16:00の間(曜日によって異なります)

孫の手ナビ

かゆい所に手が届く

ここが知りたい!

NPO運営術

Vol.10

いい会議をしよう! 最終回 ~会議終了。のツボ~

今回は会議シリーズ最終回。会議終了のツボです。えっ、会議は終わればそれでいいでしょう? 終了にツボなんであるの? そう思っていないか?

実は会議をどのように終わるかによって、それが実のあるものになるかならないかの別れ道、といっても過言では

ありません。「終わりよければすべてよし」。今回はそんな会議終了のツボをみていくことにしましょう。

次のチェック項目をみてください。今のあなたの会議はいくつチェックがつかますか? 1つずつ理由を見ていきましょう。

□①会議を終える時に「何がどこまで決まったか? 決まらなかったか?」を確認している。

「何がどこまで決まったのか?」を確認することは、参加者みんなで共通認識を図る、とても大切な行為です。もし、会議の終わりに「じゃ、そういうことで」なんて言って終わったら、各自の「そういうこと」がバラバラだったり、後になって違うじゃないか、といったトラブルの元にもなりかねません。せっかくの良い議論を水の泡にしないためにも、確認して終わること、これを忘れないでください。

□②決まらなかったことがあれば、それを「いつどうやって決めるか」を確認している。

決まらなかったことがあれば、「次の会議でこの辺りを深めていきましょう」などと一言かけることで、次へつなげる終わり方になります。先延ば

しになったり、忘れてしまうことを防ぐことができます。

□③決まったことについて、「誰がいつまでにするか?」を確認している。

さて、決まったけれども、実行はどうするの? それをみんなで確かめましょう。これは①と同様、人によって認識が違ったり、無責任にならないためにもきちんと整理して終わることが大切です。

□④次回の会議の日程を調整している。

これはできる場合とできない場合があると思いますが、集まったときに決めておくほうが、日程調整の手間が省けます。それくらい、なんて思われがちですが、日程調整には結構時間や労力がかかります。場合によっては半年くらい先まで日程を先に埋めてしまう、というのも手かもしれません。

□⑤会議の議事録を作成している。

「議事録」と聞くと、拒否反応がおこる人がいるかもしれません。分かりませぬ。名前は堅いし、文字がいっぱい作るのが大変、といったイメージでしょうか。しかし、議事録は発言速記録ではありません。団体や会議の性格にもよりますが、ポイントをしぼって、決定事項や重要な項目だけを書いたものでいいと思います。議事録の主な項目一例を載せました。参考にしながら、簡単かつ要点をしぼった議事録にしてみたいかがでしょうか。

<議事録の主な項目>①会議名 ②日時 ③場所 ④参加者 ⑤議題 ⑥決定事項と実施責任者・期限 ⑦保留事項と管理責任者・期限 ⑧次回会議日程 ⑨その他重要な事項(ポイント)

□⑥議事録は出席者で確認してから確定している。

議事録は作ってすぐ確定、ではなく、参加者に確認してから確定しましょう。リスク回避と会議内容をみんなで再確認することができます。しかし、郵便で送って確認、となると、それもまた大変な手間です。そこで、メール

Sekenよし

企業の社会貢献や
市民・行政との
協働etc.をご紹介します

財団法人 ダイトロン福祉財団

TEL.077-553-7681
http://www.daitron.co.jp/

滋賀県内の共同作業所や福祉施設の 設備助成や調査研究助成を通して、 障害者の就労支援とノーマライゼー ションを広める活動を応援します。

ダイトエレクトロン株式会社(旧大都商事株式会社)は1952年に大阪で創業。その後、滋賀県栗東工場で優れた電子機器製品を生み出し、2001年に株式上場を果たしました。地元の人々にお役に立ちたいとの意志から、同年12月に創業者の故高本善一郎が私財を投じて栗東工場内に「ダイトロン福祉財団」を設立しました。福祉の中でも、とくに障害のある人の就労を支援しようと、ダイトエレクトロングループがバックアップする形でスタートしました。

助成事業は3つあり、第一に共同作業所や授産施設の事



▲益野事務局長



▲第6回贈呈式

業展開のための設備や環境改善の助成(1件あたり100万円以内)、第二に障害者の社会参加や生活向上に寄与する調査研究助成(2件まで300万円以内)、第三に特別助成として障害者の福祉向上に寄与する助成(3件まで300万円以内)やダイトロン製ドキュメントプレゼンターと補助機器(400万円以内)の助成を行っています。これまで、計188団体に総額1億5,695万円を助成しました。

2007年度は、ワークショップぶくぶく(プレイルームの改修他)など24団体の設備助成や滋賀県手をつなぐ育成会(福祉資源型のあり方研究)他2団体の調査研究助成、びわこ学園(新たな訓練方法)他4団体に特別助成を実施しました。一方、NPO法人しが盲ろう者友の会が事務所の転居を余儀なくされ、資金不足で活動の継続が困難に陥っていたことから「県内唯一の団体であり、すぐに対処し

元気NPO にゆ〜す 宅配便

元気に活動しているNPOからの
活動レポートをお届けします。

GENKI NPO NEWS TAKUHAIBIN



上山田どっほ村

File 01

どっほ村プロジェクト拠点施設建築ワークショップ 2007年10月7日(日)～



自分の手で家を建てよう。自分の手でお米を作ろう。そうして得られる安心感のもとに、自分だけのオリジナル(独歩)の人生を歩んでいこう。

そんな思いを込め、「拠点施設をみんな建てて」ことからどっほ村プロジェクトは動き出し

ました。毎日曜日、湖北町の静かな里、上山田に素人の「日曜大工さん」が20人ほど集まって家を建ててきました。ワークショップは15回、のべ参加人数は約300人。建物はもうすぐ完成です。

この春からは、どっほ村の主軸の事業となる、25～30歳くらいを対象とした自立に向けた研修事業を始める予定です。3年間、農業と建築を仕事の中で身に付ける中から、「どっほの一步」を踏み出していただく試みです。

「百聞は一見に如かず」。興味のある方はぜひ一度、上山田に足をお運びください。

〒529-0301 東浅井郡湖北町上山田880 農業法人大戸洞舎内
TEL: 0749-78-2164 / 090-3495-7599
FAX: 050-3488-0022
e-mail: info@doppo.jp.org URL: http://www.doppo.jp.org (製作中)

石坂線21駅の顔づくりグループ

File 02

第5回パートナーシップ大賞受賞！ 2007年11月10日(土)



点から線へ、線から面へのまちづくり。毎日見慣れた駅や電車が人々に新鮮な驚きを与える舞台に変身！市民の生活に密着した公共交通が持つ力を活用し、文化の発信や地域・世代間の交流を図ることで、沿線の活性化、人々のまちづくりへの関心を呼び起こす試みとして2003年より取り組んできました。このたび、NPOと企業との協働により社会にインパクトを与えた特色ある事業を表彰する「パートナーシップ大賞」で大賞を受賞しました。(企業は京阪電鉄大津鉄道事業部)

- 点…沿線全駅の21駅に最寄りの学校・地域学区社協の掲示板や花壇を設置。
- 線…「点」を結び、電車と駅とを連動させた「石坂線文化祭」を2006年より毎秋実施することで「線」に。
- 面…2007年より「電車と青春21文字のメッセージ」を全国から募集。電車の車体や車内に入賞作品を掲示。乗客、地域住民、全国からの応募者が「石坂線」というキーワードでつながりました。

〒520-0002 大津市際川3丁目36-10
TEL: 080-2444-3359 FAX: 077-524-6875
URL: fuki-michi@mx.cable-net.ne.jp

マイママ・セラピー

File 03

「マイママ・教室」 2007年12月10日(月)

ここは、「0歳児」の赤ちゃんを育児しているお母さんを対象に少しでも早い時期に育児にかかる不安や悩みを解消するための保健室です。一方的に指導をするのではなく、お母さんと保健師が協働で育児を考えながら自分自身で問題の解決ができるようにしています。「ここへ来れば救われると聞いて」と、多くの人に参加されるようになりました。子どもの成長には個性があります。一般的ではなく、それぞれの赤ちゃんの成長に合わせたお話をすることでホッと一安心。



悩みや不安は継続して参加することや、新しいコミュニティの形成が行われていく中で自然と解決するようです。子どもの成長をお互いが喜びあい、ともに支えあいながらお母さんもまた幸せになることができました。最近ではママたちも楽しみを見つかることができるようになり活動も広がっています。

今、マイママはお産ラッシュなんですよ。
※2007年度開催日/第2・4水曜日: 0歳児クラス 第1月曜日: 0～1歳児クラス 第2月曜日: 1歳児クラス 第3月曜日: 2歳児クラス

〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目14-20
TEL: 非公開 (ご連絡はメールでお願いいたします)
FAX: 077-521-8162
e-mail: infom@mymama.jp URL: http://www.mymama.jp/

滋賀県福祉輸送ネットワーク

File 04

滋賀の福祉有償輸送情報交換会(第1回) 2007年12月16日(日)

滋賀県福祉輸送ネットワークでは、「高齢者や障害者など移動制約者の移動が円滑な輸送システム」が「だれもが住みやすい社会」の必須条件であると考えている。



そのシステムの滋賀県における現状と課題を多くの立場の人達と共有するため、滋賀の福祉有償輸送情報交換会(第1回)を開催した。当日は、県内の福祉輸送を実施しているNPO・介護事業者、利用者、行政など様々な立場の24名が参加。まず主催者側から各市町村における福祉輸送を協議する運営協議会の設置状況を提示し、アドバイザーの柿久保浩次氏(関西STS)からは近畿の現状・課題を話していただいた。同時に参加者自己紹介の中で、それぞれの立場での悩みや疑問をだしていたが、残念ながら時間切れ。さらに連携を深め実践へとつながるように活動を続けていきたい。

〒525-0034 草津市草津2-9-4 (NPO法人ディフェンス内)
TEL・FAX: 077-566-7209 携帯: 090-2013-8436
e-mail: n-defence@ex.biwa.ne.jp
※「活動ネットワーク促進事業」助成先

伝言板に掲載できなかった情報は、センターのホームページに掲載しています。URL●<http://www.ohmi-net.com/>

市民活動情報

滋賀いのちの電話 事務局スタッフを募集します

“滋賀いのちの電話”（自殺予防）は年内には法人化、相談業務開始を予定しているNPOの赤ちゃんです。てんでご舞っています。事務、広報、会計、労務、資金調達など幅広いスタッフを募集します。

☎ 藤波哲

TEL:070-5658-7981 (17時～22時) FAX:077-552-1281
e-mail:satorubox77@hotmail.com
URL:<http://shigalifelinecall.kuronowish.com>

障害者劇団ボランティア募集

「まちブロー座」は身体障害者メンバーを中心に、役者・裏方として参加する社会人、学生ボランティアと共に、4年前に旗揚げした市民劇団です。お手伝いしていただける方を募集します。募集内容●出演者、裏方（音響・照明・メイク・小道具）、介助・送迎スタッフ

☎ 障害者共働作業所「まちかどプロジェクト」担当・富田・森
〒520-2144 大津市大萱一丁目16-11サンセル瀬田1F1号
TEL:077-543-2799 FAX:077-543-2900
e-mail:machipuro@gambatta.net

きらり!びわこから お出かけしませんか? 福祉観光タクシー

自然や文化での散策、神社や寺院めぐり、行楽地でのレジャーお祭りやイベント参加、ご夫婦で温泉でリフレッシュ病院の送迎、施設での健康維持などに。ドアからドアへ親切丁寧なサービスでお答えいたします。

利用対象者●身体障害者手帳をお持ちの方、又は介護保険認定者に限る
利用方法●完全予約制
(3日前までをお願いします)
受付時間:月～木 9:00～16:00
利用料●限定中型車
(運輸局許可事業 近運自二第116号)
初乗り運賃:500mまで620円
加算運賃:260mごとに80円
時間制運賃:30分間までごとに(1割引致します)2,090円
☎ NPO法人おおきびわこ介助犬連絡協議会
〒520-3004 栗東市上砥山1360
TEL・FAX:077-558-2945
URL:<http://www.f.kankou.com/index.html>

NPO法人さかもとみんなの家ボランティア大募集!

今号「元気NPO探し隊」に取り上げられたNPO法人さかもとみんなの家では以下のボランティアを現在募集中です。
(1)家事援助ボランティア:里親家庭(里親ファミリーホーム)の炊事・洗濯・掃除等の補助。里親が急な病気や怪我の際、また仕事等で子どもの雑務が困難になった時の補助をしていただくボランティアです。
(2)学習ボランティア:里親家庭(里親ファミリーホーム)の子どもの学習補助。里親は、家事等でなかなか子どもたちの勉強を見ていない場合があります。子どもたちの勉強、また、遊び相手として補助していただくボランティアです。
(3)保育ボランティア:里親家庭(里親ファミリーホーム)の会議時等の保育。里親家庭は、おたがいの子どもたちのことを相談する会議やシンポジウムに参加する際、常に子どもたちを連れて行かなくてはなりません。その際保育として、子どもたちの相手をしていただくボランティアです。

☎ ☆昼間:知的障害者授産施設瑞穂 (AM8:30～PM5:30)
〒520-0837 大津市中庄2丁目2-11
TEL:077-525-9520 FAX:077-525-3290
☆夜間:NPO法人さかもとみんなの家事事務局 (PM5:30～PM8:00)
〒520-0113 大津市坂本6丁目16-7 TEL・FAX:077-578-6804

海外ボランティア参加者募集2008 inパキスタン

カラコルム・ヒマラヤ山脈の山麓とインダス河上流で、春は満開のアズの花のもと、夏はヒマラヤンローズや高山植物と氷河トレッキングを、秋は紅葉を楽しみながら、村人や子供達とともに植林、保健指導、学校教育、女性裁縫指導などの活動に参加しませんか?活動地はパキスタンの北東の角、世界第二の高峰「K2峰」に続く村々にはアルカイダもタリバンも来ません。また、カシミール紛争は終結して、平和な桃源郷に戻っています。北東部なので治安は良好です。子どもや村人と直接ふれあい、交流できます。

期日と主な活動内容●☆春隊/A班:3月14日(金)～3月28日(金)(15日間) “日本・パキスタン学生交流スタディーツアー”
参加資格:専門学校生、短大生、大学生、大学院生で健康な人、一般の方も可。▲B班:3月24日(月)～4月21日(月)(29日間) ファンザとスカルト周辺、シガル谷、ブラド谷のアズの花で埋まった村々で村人達と植林及び学校訪問と保健教育などをする。▲C班:4月18日(金)～5月9日(金)(22日間) インダス河支流の奥地の村々を訪問して、植林及び学校訪問と保健教育などをする。☆夏隊/D班:7月期日未定(約30日間) 植林地成育調査、学校訪問とバルトロ氷河トレッキング。E班:7月末～8月期日未定(約20日～30日間) 植林地成育調査と学校建設調査及びホー谷の自然林調査とソスプン氷河～ソカ氷河の巖頭のピーク(6000m)ハントと峠越え。※各班ともに帰りはタキシラのガンダーラ(世界遺産)の仏教遺跡の見学も可能です。参加資格●一般の成人で健康な人(未成年者は親の承諾書要)参加費用●A班:約16万円、B.C班:約28万円、D.E班:約35万円(各班の日程、活動内容によって決まります)
☎ NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ(HGC)
〒520-0843 大津市北大路3-2-12
TEL・FAX:077-534-0984 e-mail:hgc@soleil.ocn.ne.jp URL:<http://www111.ocn.ne.jp/hgc/himalayan.html>

一日アトリエ開設! 『浜大津まちなか美術館』 まちづくり

▶ 3月16日(日) 10:00～16:00 (準備は9:30～)
＜雨天の場合3月20日(祝)に変更＞

内容●3者協働のまちづくり!明日都とその周辺の一部が「一日アトリエ」になります。浜大津周辺のまちを、みんなで一日美術館に変身します!
場所●明日都浜大津およびその周辺地域
プログラム●絵画、彫刻、陶芸、書、手作り工芸、生花、映像などなど。浜大津周辺のまちが1日美術館に変身します!

☎ 大津まちなか美術館まちづくり実行委員会
TEL:077-527-8661 (大津市市民活動センター内)
FAX:077-527-8662
e-mail:otsu-shiminkatsudo@jupiter.ocn.ne.jp
URL:<http://otsu-npovol.jp/shimin/katsudo.html>

平成19年度滋賀県くらし支え合いNPO・地域活動支援事業 つくりたい人たちのための開設準備講座!

☆第2回「退職高齢者がつくる地域の居場所まだまだ使える 私の技 私の仕事 私の役割」
日時●3月11日(火) 18:00～20:30
場所●アルブラザ彦根(駅前平和堂)内 滋賀大学サテライト プラザ彦根会議室
内容●話題提供:辻村通一さん(男性ボランティアG・A・G)、小西明さん(老上学区自治連合会)、清島恒徳さん(NPO鳩の街)参加者全員でのワークショップ/コーディネーター:猪飼立子さん(滋賀県社会福祉協議会)
☆第3回「こうして立ち上げた!私たちの地域サロン・宅老所・デイサービス・グループホーム」
日時●3月18日(火) 18:00～20:30
場所●彦根市勤労福祉会館(駅西)
内容●話題提供:内藤貞勇さん(戸山わくわくサロン)、宇賀神紀子さん(NPO法人ほたるの苑)、山崎すづ江さん(材久さん)参加者全員でのワークショップ/コーディネーター:谷仙一郎さん(元気な仲間)
☆第4回「ついつい たまたま!共生型の宅老所 あったかほーむ あったかたうん」
日時●3月25日(火) 18:00～20:30
場所●アルブラザ彦根(駅前平和堂)内 滋賀大学サテライト プラザ彦根会議室
内容●話題提供:久保修さん(ディサービス愛の音)、山脇玲子さん(ほほハウス)、岡村博之さん(NPOまちづくり委員会)参加者全員でのワークショップ/コーディネーター:永田かおりさん(ひだまり)
※連続受講が原則ですが、単独受講でも構いません。
☎ 街かどケア滋賀ネット事務局(共生舎なんてん内)
〒520-3108 滋賀県湖南市石部南6丁目10-10
TEL:0748-77-5580 FAX:0748-77-5617

助成金情報

●平成20年度 藤本倫子基金/財団法人日本環境協会
◇申請期間:第1回 3月3日～4月15日 第2回 6月2日～7月15日
<http://www.jeas.or.jp>
●2008年度(第6回)「ドコモ市民活動団体への助成事業」/NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド 事務局
◇募集期間:2月1日(金)～3月31日(月)
<http://www.mcfund.or.jp/>
●財団法人ヤマト福祉財団 平成20年度 障がい者福祉助成金
◇受付期間:3月1日(土)から3月31日(月)
<http://www.yamato-fukushi.jp/>
●生命保険協会「子育て家庭支援団体に対する助成活動」
◇募集期間:2月12日(火)～3月21日(金)＜当日消印有効＞
<http://www.seiho.or.jp/index.html>
●「結(ゆい)の湖都 大津」まちづくりパワーアップ事業
★活動支援事業(予定)
◇申請期間:3月21日(金)～4月4日(金)(土日を除く、9時～17時)
大津市市民協働推進室 TEL:077-528-2915
★夢実現事業(予定)
◇申請期間:3月21日(金)～4月9日(水)(土日を除く、9時～17時)
大津市まちづくり政策課 TEL:077-528-2770
●NPO法人瀬戸内オリブ基金
◇申込みの締切り:毎月末日。
月末までに届いたプロジェクトについて、翌月に審査を行います。
助成申込書は随時受け付けています。
<http://www.olive-foundation.org/>

※詳細や最新情報は当センターホームページ「助成金情報」をご覧ください。

第6回(2008年)おうみNPO活動基金助成事業採択団体決定のお知らせ

淡海ネットワークセンターでは、自主的なNPO活動が積極的にすすめられるように2003年から「おうみNPO活動基金助成事業」を実施しています。2008年にはNPOの継続的な事業実施に必要な施設整備（市民の多様な交流促進やまちなかの景観向上に役立つもの）に対する助成（まち普請事業助成）を新たに実施しました。

このたび2008年の採択団体を決定しましたのでお知らせします。

助成区分	応募数	採択数	助成金額（円）
自主事業助成	33	11	8,340,000
協働事業助成	4	4	800,000
NPO活動支援機能助成	5	3	2,600,000
まち普請事業助成	6	2	8,523,000
計	48	20	20,263,000

採択団体

【自主事業助成】

マイママ・セラピー／特定非営利活動法人子育てネットワーク志賀うりぼう／特定非営利活動法人 成年後見センターもだま／日本理美容福祉協会滋賀米原センター／八幡酒蔵工房／特定非営利活動法人子ども自立の郷ウォームアップスクールここから／安曇川流域・森と家づくりの会／特定非営利活動法人絵本による街づくりの会／特定非営利活動法人鳩の街／特定非営利活動法人菜の花プロジェクトネットワーク／特定非営利活動法人あさがお

【協働事業助成】

特定非営利活動法人滋賀大キッズカレッジ&地域教育支援セ

ンター／特定非営利活動法人芹川／里湖づくりの会／特定非営利活動法人環境工房ころころ

【NPO活動支援機能助成】

特定非営利活動法人ひとまち政策研究所／こほく共同オフィス「たまるん」／マキノまちづくりネットワークセンター

【まち普請事業助成】

伊吹の源流を考える会／特定非営利活動法人日吉台の福祉を語る会あじさいくらぶ

淡海ネットワークセンター設立10周年記念事業

「現場で学ぶ！おうみ市民活動楽宿」

—2007年12月21日（金）～22日（土）—

NPO・企業・行政・学生など、いろんな立場から約50名（2日間のべ。1日のみ参加も含む）の参加者により、市民活動の現場での1泊2日の「楽宿」を開催しました。

「楽宿」は、1日目をNPO法人蒲生野考現倶楽部が運営する「しゃくなげ学校」で、2日目を近江八幡のまちあるきを中心に実施。講師の飯島博さん（NPO法人アサガ基基金 代表理事）とともに、互いにコミュニケーションを深めながら、市民活動の現状を学び、今後の方向性などについて大いに語り合いました。

参加者からは「まちづくりを担うひとの姿がはっきりと見えた」「滋賀の奥深さを感じた」「異分野の人との交流とつながりができた」といった声が寄せられました。



▲1日目の夜、交流会を行いました。（NPO法人蒲生野考現倶楽部「しゃくなげ学校」）



▲近江八幡での講義の様子（NPO法人しみんふくし滋賀「野間邸」）

編集後記

さかもと みんなの家の元藤さんにお話を伺いました。実子でなくても「子どもは国の宝」と、生涯かけて里子と関わる姿勢に強く胸を打たれ言葉が出ませんでした。子どもは誰もが温かい家庭という居場所を持ってほしいと思いました。大人でも子どもでも、それを実現するためにコトの大小関係なく何かできることがあるはず……。〈幅〉

心を病む方は、勉強ができて几帳面で神経質という人が多いだけに、自分の「病氣」を認めるのも時間がかかるのだとか。支える家族のお話を聞くことも大切な役割で、「メンタルスマイル」の存在は大きいようです。今の時代は何がストレスの原因になるかわかりません。高田さんたちのように、やさしい気持ちを持っていたいと思いますね。（松井）

滋賀県産の木材とはいきませんが、私も木造日本家屋に暮らしています。子どもの頃はコンクリ住宅にいましたが、やっぱり快適さも家の耐久性もやはり木造のほうがいいですね。（松田）

淡海ネットワークセンター

（財）淡海文化振興財団 淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com/ ■E-mail:office@ohmi-net.com

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日（12/29～1/3を除く）

火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、粟東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、郵便局（ボランティア貯金窓口）、公民館など

©無断転載を固くお断りします。

新刊書案内

ボーダレス化するCSR 企業とNPOの境界を超えて

原田勝広、塚本一郎 [編著]

定価：2,800円＋税

企業の社会的責任（CSR）とNPOとの協働について書かれた一冊。協働事例もいくつか掲載されています。昨年、センターで初めて「企業とNPO対話の夕べ」（企業とNPOの交流を図る催し）を企画したところ、企業側からの反応の大きさに驚きました。県内でも企業との協働事例がいくつか出てきています。企業との接点をお考えの方、一読してみたいかがでしょうか。





開館の時間を変更！&より使いやすくサロンをリニューアル！

2008年4月1日から開館時間を下記のとおり変更します。(変更部分は太字・下線)
毎週水曜日は、夜9時までOPENします。それ以外は夕方5時に閉館します。これまで午後7時閉館で利用しにくかった方はこの機会にぜひご利用ください。また、机とイスを増やして、気軽に交流ができるサロンスペースを拡大。活動の打合せや作業、他団体との交流など多彩にご活用ください。詳細はHPをご覧ください。

	変更前	変更後
火～金	AM9:00～PM7:00	火・木・金 AM9:00～ PM5:00 水 AM9:00～ PM9:00
土・日・祝日	AM9:00～PM5:00	AM9:00～PM5:00

※休館日はこれまでと変わりません。

おうみ未来塾 第10期塾生募集

あなたも「地域プロデューサー」をめざしませんか！

◆「おうみ未来塾」とは
市民活動やNPOが地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組む人が求められています。おうみ未来塾は、こうした地域課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

◆おうみ未来塾の特徴

- ①塾生の主体的な参加による塾づくり
- ②多彩な塾生で構成
- ③地域や活動の現場からの学びと実践
- ④幅広いネットワークの形成

◆システム

受講期間は、原則として約2年間(2008年6月～2010年3月)です。

【基礎実践コース(1年目)】

各地でのフィールドワークを中心に、概ね月1回の講義を行います。

【創造実践コース(2年目)】

フィールドやテーマにより、塾生数名程度からなるグループを編成し、現地調査や考察・実践等の研究活動を行います。活動内容や進捗等により月2回以上となることがあります。

◆講師(予定)

- 日高敏隆さん(元滋賀県立大学学長、動物行動学者、おうみ未来塾塾長)
- 北村裕明さん(滋賀大学経済学部教授、おうみ未来塾運営委員長)
- 岡崎昌之さん(法政大学現代福祉学部教授、おうみ未来塾運営委員)
- 岸田真代さん(NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事、おうみ未来塾運営委員)
- 澤 孝彦さん(おうみ未来塾1期生、おうみ未来塾運営委員)
- 藤井絢子さん(滋賀県環境生活協同組合理事長、おうみ未来塾運営委員)

ほか、招へい講師、数名を予定

◆募集定員：20名～25名程度

◆応募資格：18歳以上で、地域社会の課題解決や市民活動に主体的に取り組む意欲のある人。

◆経費

2年間で2万円(年1万円)の受講料が必要です。研修地までの交通費や交流会参加費などは自己負担です。

◆応募方法と締め切り

受付期間/3月16日(日)～4月15日(火)
次の①～⑥を記入のうえ、郵送、FAX、Eメールで「淡海ネットワークセンター」までお送りください。

①「私がめざす地域プロデューサー」をテーマに書いたもの(800字程度) ②名前・性別・年齢③住所④連絡先(電話、FAX、Eメールアドレス) ⑤勤務先または学校名⑥所属の市民活動団体、市民活動・地域活動の経験

◆塾生募集説明会

- 3月2日(日) 10:30～11:30
ピアザ淡海304会議室(大津市におの浜1-1-20)
- 3月8日(土) 10:30～11:30
大学サテライト・プラザ彦根(彦根市大東町2番28号 平和堂アル・プラザ彦根6階)
- 3月8日(土) 14:30～15:30
アピア研修室B(東近江市八日市浜野町3-1 ショッピングプラザアピア4階)
- 3月16日(日) 10:30～11:30
米原市米原公民館 研修室3-B(米原市下多良3-3)
- 3月16日(日) 14:30～15:30
草津市立まちづくりセンター308号(草津市西大路9-6)
- 3月29日(土) 10:30～11:30
今津東コミュニティセンター会議室3(高島市今津町中沼一丁目4-1)
- 3月29日(土) 14:30～15:30
大津市民活動センター 小会議室(大津市浜大津4丁目1-1)

市民活動・NPOのためのスキルアップ講座

広報力をみがく！ーチラシにまなぶ。市民だからできる伝え方ー

NPO・市民活動団体が、活動への思いをカタチにするために、「伝えたい」を伝える「広報」がたいへん重要です。多くの団体の皆さんにとって身近な広報媒体「チラシ」を通して、市民だからこそできる伝え方をみがきます。

◆日時：3月23日(日) 10:00～16:00

◆会場：米原市立米原公民館2AB会議室(米原市下多良3丁目3番地JR米原駅西口から徒歩約5分)

◆定員：30名(先着順)

◆対象：市民活動・NPOの広報に関係している人、取り組みたいと考えている人/市民活動・NPOの活動に関係している人、興味のある人/市民活動・NPOの支援に取り組んでいる人、興味のある人/情報発信や伝えることで、社会的な活動をしたいと考えている人

◆講師：吉田理映子さん(NPO法人市民活動情報センター・ハンズオン! 埼玉 副代表理事)

◆受講料：1,000円/1団体(3人まで)

◆申込方法：氏名・電話・FAX・Eメール・所属(勤務先・所属団体等)を記入のうえ、3月16日(日)までに、郵送・FAX、Eメールで下記までお申込ください。ホームページからお申込いただけます。

おうみネットサポーター募集&おうみネットリニューアル

次号からおうみネットを一部リニューアルすることに伴い、「おうみネットサポーター」を募集します。「おうみネット」の発行をサポートしながら、あなたのネットワークづくりや情報収集に活かしてみませんか?

◎どんなことをするの?

①団体情報の提供

毎号3団体、県内でがんばって活動している市民活動団体・NPOを紹介するコーナーがあります。このコーナーに掲載すればいいと思われる団体情報を教えてください。

②団体の取材・執筆

団体設立のきっかけや思い、活動内容などを取材し、600字程度にまとめます。取材は新たな出会いの場。他団体と関係がもてる機会となります。

③サポーターサロンの参加(自由参加)

おうみネットの発送作業をしながら、気軽な雰囲気の中でおしゃべりできるサロン。サポーター同士で互いに情報交換をしたり、「おうみネットももっとこうしたらいいね」といった意見交換を行います。お茶とお菓子をご用意してお待ちしています。

◎こんなメリットあります!

①ネットワークが広がります!

友好的な関係が築きやすい取材や楽しくおしゃべりできるサロンを通してあなたのネットワークが広がります。

②様々な情報が入手できます!

普段の情報のやりとりはメーリングリストを活用します。メーリングリストとは、メーリングリストアドレスを入力して送信すると、サポーター全員に一斉に同じメールが届くシステムです。これを活かしてサポーターの皆さんで団体情報や新たな情報を共有できます。その他、サロンや取材でも様々な情報が入手可能です。

◎その他

- ・取材とサポーターサロン参加にかかる交通費および執筆謝礼(図書券)を支給します。
- ・情報のやりとりにはメールを活用します。メールのできる環境での応募をお願いします。
- ～次号から「おうみネット」はこのようになります!～
- 発行回数：2か月に1回(偶数月発行)
- ※次号は6月発行になります。
- ページ数：8ページ
- 紙面構成：①特集 ②団体活動紹介(毎号3団体)
- ③マネジメントQ&A ④センター事業PR
- その他、レイアウト、ビジュアル等が変わる予定です。

おうみ未来塾第10期入塾記念 講義(一般公開)のお知らせ

◆講師：日高敏隆氏

(元滋賀県立大学学長、動物行動学者)

◆日時：6月15日(日)午後

※詳細は後日ホームページ等にてお知らせします。

「おうみNPO活動基金」へのご寄付ありがとうございました

しがざんリース・キャピタル株式会社さま、株式会社びわこ銀行さまより「おうみNPO活動基金」にご寄付をいただきました。滋賀県内のNPO活動支援に大いに役立てさせていただきます。誠にありがとうございました。

3 耳の日 月	4 火	5 企業とNPOの対話の夕べ 水	6 木	7 消防記念日 金
11 火	12 水	13 木	14 数学の日 金	15 世界消費者権利デー 土
19 水	20 春分の日 地域安全の日 (毎月20日) 木	21 国際人種差別撤廃デー ★ 金	22 国連水の日 土	23 市民活動・NPOのための スキルアップ講座 世界気象デー 日
27 さくらの日 木	28 金	29 おうみ未来塾塾生募集説明会 土	30 日	31 ★ 教育基本法・ 学校教育法公布の日 月
3 木	4 金	5 土	6 日	7 ★ 世界保健デー 月
11 メートル法公布記念日 金	12 土	13 日	14 ★ 月	15 火
19 土	20 青年海外協力隊の日 地域安全の日 (毎月20日) 日	21 ★ 月	22 アースデー 火	23 こども読書の日 水
27 日	28 ★ シニアの日 月	29 昭和の日 火	30 ★ 図書館記念日 国際盲導犬の日 水	
3 憲法記念日 土	4 みどりの日 日	5 こどもの日 月	6 振替休日 火	7 ★ 北方領土の日 水
11 母の日 日	12 ★ 民生委員・ 児童委員の日 月	13 火	14 水	15 国際家族デー 木
19 ★ 月	20 森林の日 地域安全の日 (毎月20日) 火	21 小学校開校の日 水	22 国際生物多様性の日 木	23 金
27 百人一首の日 火	28 国際アムネスティ記念日 水	29 木	30 消費者の日 ゴミゼロの日 金	31 世界禁煙デー 土



★ネットワークセンター休館日